

## 大西茂 年譜

編 石田克哉 高橋瑞穂

- 1928年 11月2日岡山県高梁市に生まれる。
- 1945年 第6高等学校理科甲類卒。易学と霊現象研究のため山野に伏す。
- 1953年～ 北海道大学理学部数学科を卒業。  
その後、同大学修士課程修了後、博士課程に一年在籍。その後理学部数学研究室に籍をおき研究を続ける。超無限の研究と関連の作品制作に没頭する。
- 1955年 3月15日-24日：なびす画廊（東京）にて「第1回大西茂写真展」開催。案内状パンフレットに瀧口修造と金丸重嶺両氏の文章が寄せられる。
- 1956年 12月11日-16日：日本橋高島屋（東京）にて、「第一回国際主観主義写真展」（サンケイカメラ主催）開催、《作品》を出品。同展はドイツの写真家オットー・シュタイナートが企画し1954年から1955年にかけてザールブリュッケンとパリで開催された「Subjektive Fotografie 2」が巡回したものに、日本人作家の作品が加えられたものである。
- 1957年 3月21日-31日：タケミヤ画廊（東京）にて瀧口修造の企画により「第2回大西茂印画展」開催。「印画」は大西作品に瀧口が命名したもの。  
主観主義写真を特集した『別冊アトリエ—新しい写真』5月号（アトリエ出版社）に3点掲載、また『フォト35』7月号（新日本写真会）に「大西茂写真展から」として6点掲載される。  
ミシェル・タピエ氏と知己を得る。この頃に写真から墨象作品制作へ移行する。  
10月11日-11月10日：ブリヂストン美術館（東京）、12月16日-22日：大丸百貨店（大阪）にてミシェル・タピエの企画によるアンフォルメル国際展「世界・現代芸術展」開催、出品。
- 1958年 4月12日-20日：なんば高島屋（大阪）にて「大阪国際芸術祭—新しい絵画 世界展：アンフォルメルと具体」開催、出品。その後、長崎・広島・東京・京都へ巡回。  
3月14日-20日：富士フォトサロン（東京）にて2年前に設立された日本主観写真連盟の主催で「日本主観写真展」開催、出品。  
3月31日付で北海道大学理学部を退学。
- 1959年 5月5日-6月15日：パラッツォ・グラネリ（トリノ、イタリア）にて「新しい芸術—絵画と彫刻の国際展」開催、出品。  
9月21日-30日：現代画廊（東京）にて「タピエの推す現代日本15人展」開催、出品。  
11月12日-12月2日：スタドラー画廊（パリ、フランス）にて「変成」開催、出品。  
兄の由行が中心になり「大西茂芸術活動後援会」を東京で発足。
- 1960年 4月6日-16日：現代画廊（東京）にて個展開催、読売新聞夕刊に「知的な画面構成—墨の可能性をさぐる大西茂」の見出しで中原祐介の展評が掲載される。  
4月19日-24日：なんば高島屋（大阪）にてミシェル・タピエ企画、具体美術協会主催で「国際スカイフェスティバル」開催、出品。
- 1961年 3月：国際美学研究所（トリノ、イタリア）にて「日本における継続性と前衛」開催、出品。  
大判の作品集『バロック・アンサンブルリスト5—大西』をエディツィオーニ・ダルテ・フラテッリ・ポッツォ（トリノ、イタリア）から刊行。

- 1962年 6月18日-8月5日：トリノ市立近代美術館（イタリア）にて「構造とスタイル—ヨーロッパ、アメリカ、日本42名の作家による絵画と彫刻」開催、出品。
- 1964年 8月14日-9月4日：トルクアト・ディ・テラ研究所・ビジュアルアーツセンター（ブエノスアイレス、アルゼンチン）にて「直感と形式化」開催、出品。  
11月13日-（終了日不明）：国際美学研究所（トリノ、イタリア）にて「画家たちの展示」開催、出品。
- 1965年 3月8日-（終了日不明）：国際美学研究所（トリノ、イタリア）にて「ル・バロック・ジェネラリゼ」開催、出品。
- 1969年 墨象作品と大西の数学論文が収録された『超無限の研究—連続の論理／A Study of Meta-Infinite: Logic of Continuum (1)』がミシェル・タピエの序文を添えて国際美学研究所（トリノ、イタリア）から刊行。  
2月21日-3月21日：スタドラー画廊（パリ、フランス）にて、「イソロジー、オモロジー、アナロジー」開催、出品する。
- 1970年 論文集『超関数の理論／Super Function Theory』が、ミシェル・タピエの序文を添えてオランジュリー・マルティプル（ケルン、ドイツ）から出版される。
- 1973年 12月14日-1974年1月23日：アルベール・ベルベク画廊（パリ、フランス）にて「日本の巨匠：印象、大西、鈴木、勅使河原」開催、出品。
- 1977年 2月16日-3月6日：岡山県総合文化センターにて「日本の抽象絵画：アンフォルメルを中心として」開催、出品。
- 1981年 6月6日-7月11日：奈良県立美術館にて「大橋嘉一コレクションから：現代美術の世界」開催、同コレクション収蔵3点出品。
- 1985年 9月27日-11月26日：国立国際美術館（大阪）にて「絵画の嵐・1950年代」開催、4点出品。
- 1987年 7月23日-9月23日：国立国際美術館（大阪）にて「昭和60・61年度—新収蔵作品展」開催、墨象の収蔵作品《超無限を求めて》出品。
- 1989年 1月5日-2月19日：北海道立函館美術館にて「絵画と文字：描かれた文字／書かれた絵」開催、出品。  
1月13日-2月5日：西武百貨店大津店西武ホール（滋賀）にて「墨の世界展」開催、出品。
- 1992年 1月25日-2月26日：O美術館（東京）にて「書と絵画との熱き時代：1945-1969」開催、出品。
- 1994年 12月2日岡山県高梁市で死去。
- 1998年 6月4日-7月28日：国立国際美術館（大阪）にて「線の表情」開催、収蔵作品《超無限を求めて》出品。
- 2000年 7月19日-8月27日：岡山県立美術館にて「みることの再発見—もっと美術を楽しむために」開催、寄託作品《超無限を求めて》出品。
- 2002年 2月13日-3月24日：岡山県立美術館にて「戦後岡山の美術—前衛達の姿」開催、出品。
- 2014年 5月26日-6月7日：表参道画廊（東京）にて「幻の前衛写真家—大西茂」（金子隆一企画）開催。
- 2016年 7月29日-9月11日：京都国立近代美術館にて「あの時みんな熱かった！アンフォルメルと日本の美術」開催、《超無限を求めて》出品。
- 2017年 11月9日-12日：グラン・パレ（パリ、フランス）で開催のパリフォト内MEMブースにて「大西茂—超無限を求めて」開催、19点の写真を出品。

- 2019年 3月15日-9月8日:シーボルトハウス(ライデン、オランダ)にて「日本のヌード」開催、出品。  
10月21日-(終了日未定):ニューヨーク近代美術館にて「Collection 1940s-1970s」開催、「Abstract Lens」のセクションに収蔵作品2点を出品。
- 2020年 6月19日-8月16日:Foam写真美術館(アムステルダム、オランダ)にて個展開催、その後ボンバス・ヘンス・アートセンター(バレンシア、スペイン)へ墨象の作品を加えて巡回。

#### パブリックコレクション

京都国立近代美術館  
国立国際美術館(大阪)  
大原美術館(倉敷)  
奈良県立美術館  
ニューヨーク近代美術館  
ニューヨーク公立図書館  
ボンバス・ヘンス・アートセンター(バレンシア)